

定期作況報告

平成 12年 10月
(10月 20日現在)

北海道立北見農業試験場

1 . 気象経過

9月下旬：最高気温、最低気温、平均気温は平年並であった。降水量は平年並であった（平年比91％）。日照時間は平年よりやや多かった（平年比130％）。

10月上旬：最高気温は平年に比べやや高く、最低気温は極めて高く、平均気温は高かった。降水量は平年より多かった（平年比187％）。日照時間は平年並であった（平年比93％）。

10月中旬：最高気温は平年に比べやや低く、最低気温は極めて低く、平均気温は極めて低かった。降水量は平年より少なかった（平年比13％）。日照時間は平年より極めて多かった（平年比 157％）。

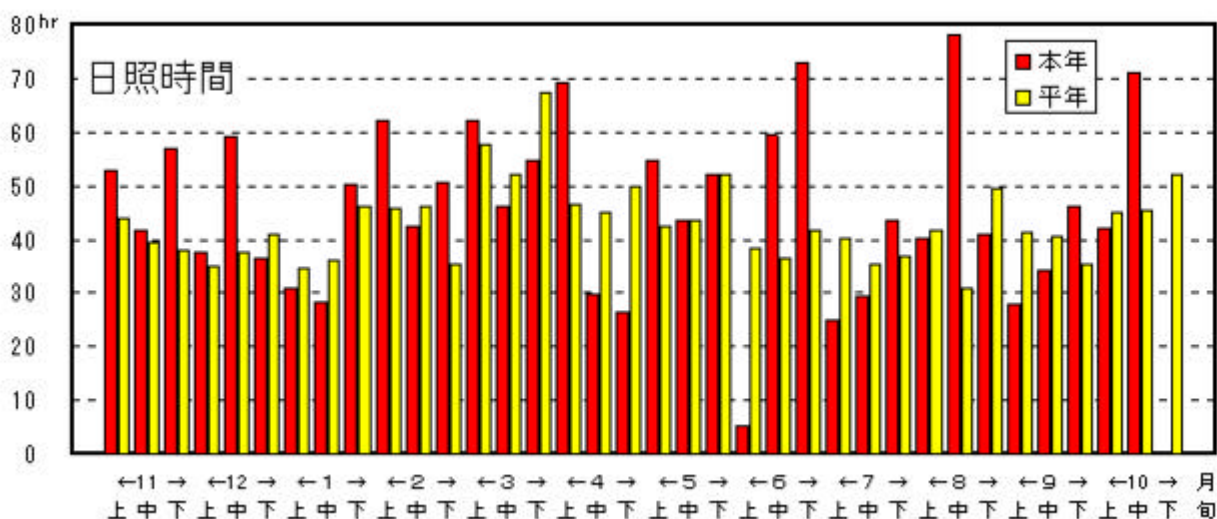
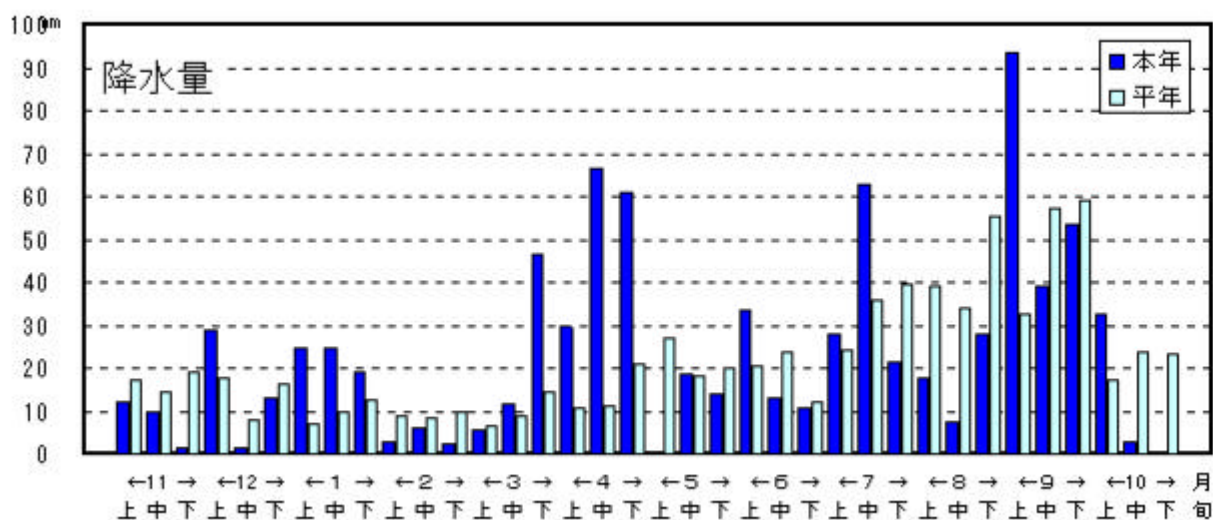
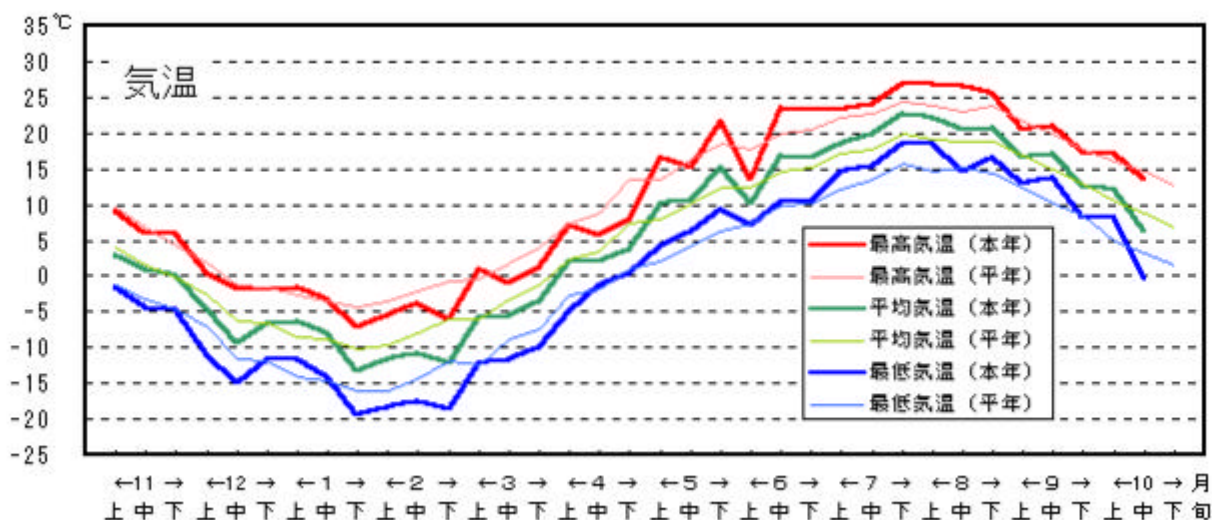
以上のことから、この1か月間（9月下旬～10月中旬）は、平年並の気温で多照に経過した。

気 象 表

項目 月 旬	平均気温（ ）			最高気温（ ）			最低気温（ ）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
9月下旬	12.8	12.9	0.1	17.3	17.7	0.4	8.3	8.4	0.1
10月上旬	12.2	10.4	1.8	17.1	16.1	1.0	8.2	4.9	3.3
10月中旬	6.3	8.8	2.5	13.6	14.7	1.1	-0.4	3.3	3.7
平均	10.4	10.7	0.3	16.0	16.2	0.2	5.4	5.5	0.1

項目 月 旬	降水量（mm）			日照時間（h）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
9月下旬	53.5	58.9	5.4	46.2	35.5	10.7
10月上旬	32.5	17.4	15.1	42.0	45.2	3.2
10月中旬	3.0	23.8	20.8	71.1	45.4	25.7
合計	89.0	100.1	11.1	159.3	126.1	33.2

注) 1)観測値は、置戸町境野のアメダスデータである。
2)平年値は、前10か年間の平均である。



2. 当場の作況

1) とうもろこし

作況：良

事由：収穫期は平年より13日早い9月14日であった。雌穂の熟度は両品種とも黄熟中期で、登熟は平年より進んだ。乾物茎葉重は「ワセホマレ」が平年よりやや少なく「ダイハイゲン」が平年並であったが、乾物雌穂重は両品種とも平年より多かった。その結果、乾物総重の平年比は「ワセホマレ」が108%、「ダイハイゲン」が107%となった。総体乾物率は両品種とも平年よりやや低かったが、これは9月上旬の降雨により土壌水分が豊富になったため、茎葉の水分の減少が抑制されたためと考えられる。推定TDN収量の平年比は「ワセホマレ」が110%、「ダイハイゲン」が108%で、両品種とも平年より多収であった。

以上のことから、本年の作況は良である。

品 種 名	収穫期 (月・日)			雌穂の熟度		不稔個体割合 (%)			生総重 (kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	本年	平年	比較	本年	平年	比較
ワセホマレ	9.14	9.27	13	黄熟中期	黄熟初期	0.0	1.7	1.7	5068	4234	834
ダイハイゲン	9.14	9.27	13	黄熟中期	黄熟初期	0.0	3.3	3.3	5756	4721	1035

品 種 名	乾物茎葉重 (kg/10a)			乾物雌穂重 (kg/10a)			乾物総重 (kg/10a)			同左 平年比 (%)
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
ワセホマレ	534	548	14	721	611	110	1255	1159	96	108
ダイハイゲン	582	578	4	772	692	80	1354	1270	84	107

品 種 名	総体乾物率 (%)			推定TDN収量 (kg/10a)			同左 平年比 (%)
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
ワセホマレ	24.8	27.7	2.9	924	838	86	110
ダイハイゲン	23.5	27.2	3.7	995	925	70	108

注) 平年値は前7か年中、平成5年と平成9年を除く5か年の平均。

$$\text{推定TDN収量} = \text{乾物茎葉重} \times 0.582 + \text{乾物雌穂重} \times 0.850$$

2) 大 豆

作況：良

事由：9月下旬～10月上旬の気温は平年並～平年より高く経過したため、登熟は概ね順調に進み、成熟期は平年より「トヨコマチ」で3日、「キタムスメ」で6日早かった。「キタムスメ」の百粒重は平年よりやや軽かったが、着莢数は両品種とも平年を大きく上回ったため、子実重は平年比125～128%と多収であった。

以上のことから本年の作況は良である。

3) 小豆

作況：試験の中止

事由：微量要素欠乏により生育の著しい停滞がみられたため、8月以降試験を中止した。

4) 菜豆

作況：平年並

事由：「大正金時」では着莢数は平年並であったが、百粒重が平年より軽かったため、子実重は平年比91%と低収であった。一方、手亡類では着莢数が平年よりやや多く、百粒重はほぼ平年並であったため、子実重は平年比108~111%と多収であった。屑粒率は「大正金時」では平年より低かったが、手亡類では成熟期前後の期間に降雨が多く、莢表面および内部にかびが蔓延したため、平年よりかなり高かった。

以上を総合すると本年の作況は平年並である。

種類	品種名	成熟期(月・日)			主茎長・草丈(cm)			主茎節数		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
大豆	キタムスメ	10.7	10.13	6	71.7	76.8	5.1	13.3	13.2	0.1
	トヨコマチ	10.2	10.5	3	55.3	57.5	2.2	11.0	10.8	0.2
小豆	エリモショウズ	-	9.23	-	-	46.7	-	-	12.9	-
	サホロショウズ	-	9.16	-	-	37.1	-	-	10.5	-
菜豆	大正金時	8.31	9.5	5	40.6	38.6	2.0	5.0	5.2	0.2
	姫手亡	9.14	9.22	8	56.6	47.1	9.5	9.6	9.1	0.5
	雪手亡	9.14	9.22	8	58.7	50.6	8.1	9.6	9.3	0.3

種類	品種名	分枝数(本/株)			着莢数(個/株)			子実重(kg/10a)			同左平年 比(%)
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
大豆	キタムスメ	5.9	5.5	0.4	77.1	65.3	11.8	366	292	74	125
	トヨコマチ	5.5	4.7	0.8	67.9	53.2	14.7	340	265	75	128
小豆	エリモショウズ	-	2.9	-	-	45.7	-	-	333	-	-
	サホロショウズ	-	3.2	-	-	45.1	-	-	264	-	-
菜豆	大正金時	2.8	3.4	0.6	17.4	17.2	0.2	231	253	22	91
	姫手亡	7.1	6.4	0.7	34.3	30.6	3.7	390	350	40	111
	雪手亡	6.9	6.5	0.4	32.8	31.3	1.5	399	368	31	108

種類	品種名	屑粒率(%)			百粒重(g)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
大豆	キタムスメ	0.7	1.2	0.5	28.8	30.5	1.7
	トヨコマチ	0.5	5.6	5.1	33.7	32.5	1.2
小豆	エリモショウズ	-	2.0	-	-	14.5	-
	サホロショウズ	-	3.1	-	-	15.9	-
菜豆	大正金時	0.6	1.2	0.6	65.0	72.3	7.3
	姫手亡	8.4	1.8	6.6	33.9	33.3	0.6
	雪手亡	7.2	1.6	5.6	33.3	33.5	0.2

注) 平年値は前7か年中、大豆は平成5年と11年、小豆は平成5年と9年を除く5か年の平均。

菜豆は前8か年中、平成6年と8年および再播した10年を除く5か年の平均。

5) ばれいしょ

作況：やや良

事由：「男爵薯」は、前報のとおり枯凋期および上いも重は平年並で、でん粉価は平年より高かった。「紅丸」は、枯凋期は平年並で上いも重は平年比107%と平年を上回った。伸長型の二次生長が比較的多くみられたものの、でん粉価は平年より1.3ポイント高く、でん粉重は平年比117%と平成5年に現在の栽植密度で調査を開始して以来最も多収となった。「紅丸」には約3割の塊茎に褐色心腐が認められたが、症状はきわめて軽微でありでん粉原料としては問題ない。

以上のことから、本年の作況はやや良である。

品種名	枯凋期(月・日)			上いも重(kg/10a)			でん粉価(%)			でん粉重(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵薯	9.10	9.10	0	4,540	4,589	49	16.3	14.5	1.8	692	617	75
紅丸	10.4	10.4	0	6,217	5,808	409	17.0	15.7	1.3	993	851	142

注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」「紅丸」とも平成6年、9年を除く5か年の平均。

6) てんさい

作況：やや不良

事由：収穫期はほぼ平年並の10月19日であった。10月上旬は降水量・気温ともに平年を上回り、10月中旬には極端に気温が低下したため、前節からの根中糖分の増加は少なかった。従って、根重は平年を大きく上回ったものの、根中糖分では平年を大きく下回り、糖量では平年をやや下回った。

以上のことから本年の作況はやや不良である。

栽培法	品種名	収穫期(月・日)			茎葉重(kg/10a)			根重(kg/10a)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
移植	モノホマレ	10.19	10.20	1	4418	4691	273	6652	5653	999
	ストーク	10.19	10.20	1	4113	4491	378	6269	5223	1046
直播	モノホマレ	10.19	10.20	1	4474	4698	224	5491	4941	550

栽培法	品種名	根中糖分(%)			糖量(kg/10a)			平年比(%)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	根重	根中糖分	糖量
移植	モノホマレ	15.09	18.39	3.30	1004	1037	33	118	82	97
	ストーク	15.04	18.54	3.50	943	965	22	120	81	98
直播	モノホマレ	15.52	17.11	1.59	852	843	9	111	91	101

注) 平年値は前7か年中、移植栽培は平成7年、10年を除く5か年の平均、直播栽培は平成5年、10年を除く5か年の平均。

7) 牧 草

作況：不良

事由：オーチャードグラス混播草地の4番草は、平年に比べシロクロバの草丈が高く、乾物率が低かった。また同単播草地の4番草は、乾物率が低かった。同草地の4番草の乾物収量の平年比は混播で101%、単播で99%であり、1～4番草を合計した乾物収量の平年比は混播が95%、単播が86%であった。チモシー混播草地の3番草はイネ科・マメ科両草種の草丈が高く、乾物率が低かった。また同単播草地の3番草は、乾物率が低かった。同草地の3番草の乾物収量の平年比は混播で108%、単播で127%であり、1～3番草を合計した乾物収量の平年比は、混播が97%、単播が96%であった。また本年のオーチャードグラス混播・単播両草地及びチモシー混播・単播両草地の乾物収量の合計の平年比は94%であった。

以上のことから本年の作況は不良であった。

オーチャードグラス混播・単播草地4番草調査結果(10月5日刈取り)

草地	草種	草丈(cm)			マメ科率(%)			乾物率(%)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
混播	オーチャードグラス	56	53	3	19.0	20.3	1.3	16.0	20.8	4.8
	シロクロバ	39	30	9						
単播	オーチャードグラス	53	49	4	-	-	-	18.1	22.0	3.9

同草地1～4番草収量調査結果

(1番草：6月5日 2番草：7月18日 3番草：8月23日 4番草10月5日刈取り)

草地	番草	生草収量(kg/10a)				乾物収量(kg/10a)			
		本年	平年	比較	対平年比(%)	本年	平年	比較	対平年比(%)
混播	1番草	2284	2043	241	112	313	290	23	108
	2番草	1674	1758	84	95	231	272	41	85
	3番草	999	1155	156	86	197	224	27	88
	4番草	749	576	173	130	119	118	1	101
	合計	5706	5532	174	103	860	905	45	95
単播	1番草	861	1120	259	77	159	193	34	82
	2番草	731	817	86	89	141	183	42	77
	3番草	568	678	110	84	132	144	12	92
	4番草	542	456	86	119	98	99	1	99
	合計	2702	3071	369	88	530	618	88	86

チモシー混播・単播草地3番草調査結果(10月5日刈取り)

草地	草種	草丈(cm)			マメ科率(%)			乾物率(%)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
混播	チモシー	66	55	11	86.5	65.8	20.7	14.7	19.3	4.6
	アカクローバ	56	45	11						
単播	チモシー	49	45	4	-	-	-	23.5	28.3	4.8

同草地1~3番草収量調査結果

(1番草:6月19日 2番草:8月8日 3番草:10月5日刈取り)

草地	番草	生草収量(kg/10a)				乾物収量(kg/10a)			
		本年	平年	比較	対平年比(%)	本年	平年	比較	対平年比(%)
混播	1番草	3689	3857	168	96	553	589	36	94
	2番草	2691	2164	527	124	346	359	13	96
	3番草	891	843	48	106	174	161	13	108
	合計	7271	6864	407	106	1073	1110	37	97
単播	1番草	1481	1909	428	78	317	419	102	76
	2番草	924	496	428	186	176	125	51	141
	3番草	520	348	172	149	122	96	26	127
	合計	2925	2753	172	106	615	640	25	96

本年の全草地の合計乾物収量(kg/10a)調査結果

草種	草地	本年	平年	比較	対平年比(%)
オーチャードグラス	混播	860	905	45	95
	単播	530	618	88	86
チモシー	混播	1073	1110	37	97
	単播	615	640	25	96
合計		3078	3273	195	94

注) 1. 各草種の品種はオーチャードグラスが「キタミドリ」、シロクローバ(オーチャードグラス混播草地)が「カリフォルニアラジノ」、チモシーが「ノサップ」、アカクローバ(チモシー混播草地)が「サッポロ」である。

2. 混播草地の乾物率は、イネ科・マメ科を併せた全体についてのものである。

3. 平年値は平成5年から平成11年までの前7か年のうち、オーチャードグラス混播草地は平成9年と平成10年を、他の3草地は平成7年と平成11年を除く5年間の平均である。